

令和4年度 第2回 会津若松市中小企業・小規模企業 未来会議 要旨

日時：令和4年10月3日（月）14：00～16：00

場所：生涯学習総合センター（會津稽古堂）研修室4

1 開会

2 協議

会津大学短期大学部 木谷准教授を座長として進行する。

【情報共有】

①最近の状況や課題、各団体の取り組みについて

・10月1日～12月上旬、只見線全線開通に合わせ、会津大学短大、拓殖大、専修大学の共同で「起き上がりこぼし」プロジェクトを実施。会津川口駅と只見駅に学生がデザインした起き上がりこぼしを設置。一部の起き上がりこぼしにはQRコードを貼り付け、観光情報等を提供する。ゼミ生は会津地域出身者でも奥会津に行ったことがなく、潜在的な需要があるように感じた。

・8月末に行われた河東の皆鶴まつりについては、コロナ等の状況にて花火大会・墓前祭のみの開催となった。花火大会については、青年部での初の試みとなるインスタグラムでのライブ配信を行い、ゲストを招いての地元企業のPRも含めて発信し自社も参加した。製品のプレゼント企画を行ったところ、応募者は少なかったが当選者より製品についての問い合わせがあり来年以降への期待となった（東京、富山等）。前回のセミナーで学んだことが、SNSを使用した企画に取り組むことへの後押しをしてくれた。何事もやっただけでは次には繋がらず、結果・利益に繋がらなければ飽きられるように感じる。

・地域経済に大きな変動はないが、先行きへの不安が増している。行動制限はないが、住民の活発な活動もない。

・事業者の資金面での当面の一番の困りごととしては、売り上げが上がらないと運転資金の確保ができず、今後の融資返済が厳しくなってしまうこと。

・主な懸念材料がコロナから物価等（水道光熱費・燃料・仕入れ値など）の高騰にシフトしつつある。物販の業種については比較的速やかに価格転嫁できているが、サービス業は価格に転嫁せず自社の収益を削っており、我慢比べの状態。

・融資については、一番件数が多いのは伴走支援制度。当てはまらなければ、市の未来資金を活用している。据置の延長というよりは、返済額を減らして返済期間を延長する対応が多い。

・消費税（内容～インボイス制度の概要と企業の対応実務について）と副業（内容～福島県が行っているパラレルキャリア人材共創促進事業の仕組みと募集からマッチングまでのサポート体制について）のセミナーを開催した。

- ・事業再構築補助金（第6回目）の採択結果が公表され、確認書を発行した6件の内1件が採択となった。全国では、15,340件に対し7,669件が採択となり、採択率は50%程度（過去最高の水準）。
- ・貸付条件の変更（返済期間・据置期間延長等）件数は、横ばいの状況ではあるが観光関連の業種は、依然として資金繰りが厳しい事業者が見受けられる。全国旅行支援での改善に期待したい。
- ・団体としての活動もコロナ前の状況に戻りつつある。
- ・会津まつりに参加して、観光客がかなり戻ってきているのかなという印象を受けた。特に県外ナンバーの車が開催前日から市内で多く見受けられた。
- ・自社の関連会社やお会いした方の話を聞くと、どこも人材不足で、新しい仕掛けをするにもそこがネックになっているように感じる。
- ・人材不足により、一人ひとりの業務負担が増えており、外注先も同様の状況の為、外注も出せずに困る場面が増えてきている。これは仕事でも所属団体でもコロナ前からの課題ではあったが、コロナ禍によってより課題視されるようになってきていると感じる。
- ・今年は団体として、子どもたちを巻き込んだ事業を多数展開することができている。教育委員会はじめ、学校、家庭の理解があってこそ開催できるものなので、それを考えるとコロナに対する強い警戒心は解けてきているように感じる。
- ・台風での休校により、パンの納入業者が製品を廃棄せざるを得ない事例があったと聞いた（金銭面での損失はなし）。法律や制度で決まっていることなので難しい面もあると思うが、避難者への提供など柔軟な活用ができれば。
- ・会津地区における上半期の組合設立については2件。どちらも特定地域づくり事業協同組合制度による労働者派遣事業を実施することを目的とした組合。
- ・事業者向けインボイスセミナーや県事業承継・引継ぎ支援センターと連携した個別相談会を開催予定。
- ・近年、脱系列取引、グリーン化やデジタル化の進展、人口減少等、中小企業・小規模企業を取り巻く環境が大きく変化する中で、経営の方向性を見極めることが徐々に難しくなっている感がある。また、全く予想しなかったコロナ禍で経営環境の劇的変化が起こり、経営者が単独で環境変化に対応することは、更に困難になってきたように考える。やはり商工会等の第三者が企業の経営課題を見極め抽出するような形での自己改革力を高める経営支援が今後更に必要になってくると考える。
- ・夏のイベントが再開したものの、コロナの感染拡大により外出を控える動きがみられ、飲食業や観光業は期待したほど業績は上向いていない。コロナが業績へマイナス影響があると回答した企業は70.4%（全国）。
- ・建設業、製造業、卸売業などは、建設業の一部に業績が改善するも、資材、原材料・燃料価格の高騰などにより価格転嫁できずに収益が圧迫している事業所がある。
- ・経済、教育分野における交流拡大を目的に静岡商工会議所と協定を締結。来年のNHK大河

ドラマ「どうする家康」放映を機に、観光資源や特産品の PR、歴史教育交流、絆事業などを展開。

- ・消費税インボイス制度に対する発行事業者登録が低調。登録率は法人 42.4%、個人企業 9.9%で、法人に比べ個人企業の遅れが目立つ。
 - ・融資関係は、特別利子補給制度（3年間無利子）が9月末で終了になったことから、9月は借入、借換の申込件数がいつもの月より多かった。
 - ・2年間コロナで活動を自粛してきたため、現在もそれを理由に団体事業を行わないようにしようとする方が一部いる。団体として今年度開始時に決めたことをブレずに継続することにより予定通り事業を行っている。
 - ・コロナに対する考え方は、人それぞれなので肯定も否定もせず各人に任せている。
 - ・ジュニアエコノミーカレッジを予定通り行っており、10月22日23日の販売実践にむけて現在準備している。
 - ・売り上げは基準に基づくものであるが、消耗品などの原価が上がり経費がかさんでいる。
 - ・利用客は戻ってきているが、人手が足りていない。
 - ・M&Aの紹介カタログが毎月のように届く。どこも人出不足なのか？市内でも同業種で経営者が変わってきている。
 - ・今後 AiCT 入居企業と団体の親睦会を予定している。
- どの団体の企業でも、AiCT で行われていることが認知されていない。デジ田の報道はされているが「何にお金が使われているかわからない」。地元中小企業・小規模企業での理解・認知度向上を図る見学会・勉強会を、未来会議として行うのもよいのでは。

②セミナーの振り返り及び今後の方向性

○振り返り

- ・具体例を多く交え、また、講師の皆さんの説明も上手で、非常にわかりやすく勉強になるセミナーだった。学生も参加したが、内容や問題意識を理解し、視野が広がった様子。
- ・参加者が多くなかったことは、今後の課題（会津若松市だけの問題ではなく、前任地でも同様の課題に直面した）。どうすれば参加のハードルを下げられるか（オンデマンド方式にして自由に見てもらおう？ただし、講師は自由に話せなくなる）。
- ・講義で説明のあった「Downstream から学ぶ DX」プログラムは、具体例からスタートするという点で、今回のセミナーと共通している。プログラムの成果は、「DX」を広めるひとつの「売り」になるかもしれない。
- ・南部鉄器の田山氏の取り組んでいる IT 化について、是非自社でも取り入れていきたいと強く思った。それについて当面の課題は、人材確保と育成に取り組む必要があると気づきをいただいた。
- ・関心を持っている人が参加しているのは良かった。遠くの出来事ではなく、身近な成功例の方が良い。

・全国的に低迷している伝統工芸ではあるが、デジタル化を駆使した田山氏の成功事例や高山氏によるマーケティングに関する講話は、業種にかかわらず今後のビジネスモデルとして非常に参考となった。

・高山先生の話は大変気づきの多い話で勉強になった。特に「意味的価値」の話は自分も含めた現在の消費行動を上手に説明されており腑に落ち刺さった。今後の組合支援にあたって活用できるもので大変ありがたかった。

・前年度のセミナーに参加し、内容もワークショップも面白かったが時間が足りなかった。

・商品の付加価値のつけ方や戦略もさまざまある中で伝統的なものと VR というのは面白いと思った。

・大学の協力を受けている点について会津でもできる可能性はあると感じた。

・自社のみではなかなか難しいが、団体として取り組められれば。

○今後の方向性

・どうすればより多くの人に参加してもらえるか。ターゲットを特定したセミナー、告知が有効か。

・会津地域では様々な企業コラボ事例があっていいことだと思う。やる気のある企業は自然に繋がっていきける機会があるように感じる。今後は待っているだけではなく、更に発信力を増すためにも、団体間（企業間のみではなく周りが繋がっていきけるような）のタイアップ企画があってもいい。

・中小企業、零細企業が物価高に喘いでいるが、地元の雇用創出機会の減少にならないためにはどうしたらいいのかと、魅力の創出をしなければと思う。

・参加者を増やすためには、人（講師）で呼ぶのか、内容で呼ぶのか、参加してほしい層の一番の関心事に合致していることが大事。所属団体で行う際には、まず集まってもらうことに重きを置いており、どの対象をターゲットにするか、その層は何に興味があるのかを考えている。

・今後のセミナーも他の団体にはない未来会議ならではの良いものを発信して頂きたい。

・例えば高山先生から具体的な指導を受けたい会社を公募し、具体的に組み組んでみてはどうか。

・今後のテーマとしては、最近の新聞報道でもあるように県外に出る大卒者・高卒者が福島県は非常に多いとのことなのでそこを少なくすることや、県外に一度出た人を地元企業に戻す方法など、今後将来の会津若松市の経済を支える若者たちの流出を避けるために各種団体・中小企業やるべきことなど。

○事務局より

次回以降も議論を重ね総括していく。その結果を「未来会議からの提案」というような形で発信していく予定であると説明。

令和4年度
会津若松市中小企業・小規模企業未来会議 コアメンバー

所属・企業名		役職	氏名（敬称略）	備考	第2回 出欠
会津大学短期大学部 産業情報学科		准教授	木谷 耕平		出
中小・小規模企業者	(株) cluster	代表取締役	齋藤 英宣	会津若松商工会議所 推薦	出
	古川プラスチック	代表	古川 孝治	あいづ商工会 推薦	出
	(株) 三義漆器店	代表取締役	曾根 佳弘	県中小企業家同友会 会津支部 推薦	出
	TAKLAM	代表	遠藤 和輝	公益財団法人 会津青年会議所 推薦	欠
	(有) 林製パン	取締役	林 陵平	公益財団法人 会津青年会議所 【代理出席】	出
支援機関	会津若松商工会議所	企業振興課 課長	吉田 浩		出
	あいづ商工会	事務局長	白川 浩二		出
	福島県中小企業団体中央会 会津事務所	所長	堀 和弘		欠
	会津信用金庫	本店営業部長	渡部 勝敏		出
	会津商工信用組合	融資部 副部長	清野 敦		出
		融資部地域支援課 課長補佐	藤巻 正義		出
会津若松市観光商工部商工課		課長	櫻井 恭子		出